

令和8年度堺市立多摩中学校  
社会科 年間指導計画、評価規準 (第1学年)

学期	月	時数	単元名と内容	学習活動	観点別評価規準(主たるもの)			
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	4	5	【地理的分野】 第1部 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿	世界の地域構成を取りあげ、位置や分布などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を行う。	世界の六つの州と主な国の位置と名称や、緯度と経度のしみを理解したり、地図帳のさいくんと統計資料を活用したりしている。	国名や国旗、国境線の色から、その国の歴史や文化が分かることや、さまざまな種類の世界地図の特色を考察している。	地図や地球儀に親しみ、世界の地域構成や位置の表現方法について主体的に追究しようとしている。	
			第2章 日本の姿	日本の地域構成を取りあげ、位置や分布などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を行う。	世界の中で日本の位置や、日本の領域と領土をめぐる問題、日本の都道府県について理解し、世界の中で日本の位置を示したり、日本と各地との時差を計算し時刻を求めたりすることができる。	世界の中で日本の位置や広がりや、日本と世界各々の時差、日本の領土・領域について、多面的・多角的に考察している。	世界の中で日本の位置や広がりについて関心をもち、地球儀や地図を活用して、それらの事象を主体的に追究、解決しようとしている。	
	5	5	第2部 世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境	場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を行う。	世界各地の人々の多様な生活と環境について、気候や地形などの自然条件と衣食住や宗教などの社会的条件を関連付けて理解している。	世界各地の人々の多様な生活と環境について、自然条件や社会的条件と関連づけ、写真や地図、主題図などを活用して多面的・多角的に考察している。	世界各地の人々の多様な生活と環境に対して関心をもち、主体的に追究しようとしている。	
			第2章 世界の諸地域 第1節 アジア州	アジア州を取りあげ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を行う。	多様な自然環境や文化、産業がみられるアジア州について、地域ごとにその特色を理解し、地域間の違いからアジア州全体の地域的特色を理解している。	アジア州の国々が急激な経済発展をしている理由を、人口増加や他地域との結びつきなどに着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。	急激な人口増加と経済発展が、アジア州に暮らす人々に与える影響や、それによって生じる課題とその解決を、主体的に追究しようとしている。	
	6	4	5	第2節 ヨーロッパ州	ヨーロッパ州を取りあげ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を行う。	空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目してヨーロッパ州の地域的特色について自然環境、文化、産業の特色を大観し、自然環境や文化にみられるヨーロッパの共通性と多様性を理解している。	空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、EU統合の背景や課題、人々の生活に与える影響などについて、ヨーロッパ州の地域的特色と関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。	他地域との比較を交えながら、ヨーロッパ州の人々の生活に関心をもち、EU統合や文化の多様性に関わる課題を、よりよい社会の実現を視野に置いて主体的に追究しようとしている。
	7	7	7	第4節 北アメリカ州	北アメリカ州を取りあげ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を行う。	世界をリードし続けているアメリカ合衆国において、民族の多様性や、広大な国土を利用した農業、変化し続ける工業について理解している。	北アメリカ州の地域的特色や課題を、そこに暮らす人々の生活の様子を基に、多面的・多角的に考察している。	世界に大きな影響を与える北アメリカ州の産業や文化に着目しながら、それに関わる課題を主体的に追究しようとしている。
	8	3	2	第6節 オセアニア州	オセアニア州を取りあげ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を行う。	オセアニア州の自然環境の特色と植民地支配されていた歴史を理解し、自然環境と結びつく産業や、多文化社会による移民と先住民との共生などの地域的特色を理解している。	オセアニア州の国々が、ヨーロッパの国と密接な関係を保ちながら、近年アジアとのつながりを深め、多文化社会を進めている理由や課題を多面的・多角的に考察している。	オーストラリアやニュージーランドの多文化社会に着目しながら、オセアニア州の地域的特色や地域の新たな課題を主体的に追究しようとしている。
2	3	3	【歴史的分野】 第1章 歴史へのとらえ方 第1節 歴史をとらえる見方・考え方	歴史の表現方法や歴史的な見方・考え方といった歴史をとらえる方法を、追及する活動を行う。	年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解している。	時期や年代、推移、現在の私たちがのつながりに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などを、時代区分との関わりなどについて考察し、表現している。	歴史の表現方法や歴史的な見方・考え方といった歴史をとらえる方法を、主体的に追究しようとしている。	
			第2節 身近な地域の歴史	自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもち、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	様々な手段で地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などに適切にまとめている。	比較や関連、時代的背景や地域的な環境、歴史と私たちがのつながりに着目して、身近な地域の歴史的特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもち、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
	4	5	第2章 古代までの日本 第1節 世界の古代文明と宗教のおこり	世界の古代文明や宗教など、人類が様々なものを生み出したことについて、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。	古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりなど、人類が生み出したものを多面的・多角的に考察し、表現している。	世界の古代文明や宗教など、人類が様々なものを生み出したことについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
				第2節 日本列島の誕生と大陸との交流	日本列島における国家形成について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和政権による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国が国家が形成されていったことを理解している。	農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	日本列島における国家形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	5	2	第3節 古代国家の歩みと東アジア世界	古代の政治の変化、古代の文化と東アジアとの関わりからどのように律令国家が成立したのかについて、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	聖徳太子らの政治や大化の改新、撰閣政治などを基に、東アジアの文化や制度を積極的に取り入れながら律令国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。	東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の政治の変化や、古代の文化と東アジアとを関連付けるなど、どのように律令国家が成立したかを多面的・多角的に考察し、表現している。	古代の政治の変化、古代の文化と東アジアとの関わりからどのように律令国家が成立したのかについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
				第3章 中世の日本 第1節 武士の政権の成立	武士政治の成立について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	鎌倉幕府の成立などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武士政権が成立し、その支配が広まったことを理解している。	武士の政治への進出と展開、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武士政治の成立について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	武士政治の成立について、武士が社会を動かすほどの力をもつことになった理由とそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	6	10	第2節 ユーラシアの動きと東アジアの展開	ユーラシアの交流、武士政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、ユーラシアの交流、武士政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	ユーラシアの交流、武士政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、民衆がどのように力を持つようになったか、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
				第4章 近世の日本 第1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一	世界の動きと織豊期の統一事業について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武將や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎が作られたことを理解している。	交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の動きと統一事業について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	世界の動きと統一事業について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

105	主な評価の方法	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート ・レポート	・パフォーマンス課題 ・ポートフォリオ
評価基準	<p>1. 上記の評価規準、評価方法に基づき各観点別に  A: 十分満足できる…到達度80%以上 B: おおむね満足できる…到達度50%以上～80%未満 C: 努力を要する…到達度50%未満 で評価する</p> <p>2. 観点別評価から評定への総括…各観点の実現状況(到達度)を総括し、下記の要領で5段階評価する  90%以上の到達度…5 80%以上～90%未満の到達度…4 50%以上～80%未満の到達度…3 20%以上～50%未満の到達度…2 20%未満の到達度…1</p>			

令和8年度昭島市立多摩中学校  
社会科 年間指導計画、評価規準 [第2学年]

学期	月	時数	単元名と内容	学習活動	観点別評価規準(主たるもの)		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4	14	【地理的分野】 第3部 日本のさまざまな地域 第2章 日本の地域的特色	「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目を取りあげ、分布や地域などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を行う。	日本の地域的特色を、自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信の視点から、写真、図版、地図、雨温図など、さまざまな資料を適切に選択して読み取り、理解している。	日本の自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信などの地域的特色が、どのように変化し、どのような課題を抱えているのか、多面的・多角的に考察し、表現している。	自然災害への対応や人口減少に伴う少子高齢化など、身近な地域や生活との関わりに着目して、日本の地域的な課題について、主体的に追究しようとしている。
			第3章 日本の諸地域 第1節 九州地方	自然環境を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を行う。	九州地方の地形や気候などの自然環境に関する特色を理解し、九州地方の自然環境を生かした産業や、防災の取り組みについて、それらの課題を理解している。	九州地方において、特色ある人々の生活や産業が成立する背景を、自然環境や、大陸・国内との結び付き、地域の課題などと有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	九州地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境と生活、産業との関わりについての課題を主体的に追究しようとしている。
	6	第2節 中国・四国地方	交通や通信を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を行う。	地図や資料から、中国・四国地方の交通・通信網による結び付きの変化と、それに関連する産業や生活の変化や課題について理解している。	中国・四国地方の結び付きの変化や産業の変容について、人や物の移動の量や方向、人々の工夫などと有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。	中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、交通・通信網の整備に伴う産業の発展や地域の活性化に向けた努力などについて、主体的に粘り強く追究しようとしている。	
		第3節 近畿地方	環境保全を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を行う。	地図や資料を活用し、近畿地方の自然環境や歴史的景観の保全などの特色ある事象を読み取り、近畿地方の地域的特色を理解している。	自然環境や歴史的景観の保全に関わる取り組み、人口の分布や住民の生活および産業の変化などと関連付けながら、原因と対策、効果の面から多面的・多角的に考察し、表現している。	近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点からみた人々の生活や産業の課題を、主体的に追究しようとしている。	
2	7	9	第5節 関東地方	人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を行う。	関東地方の自然環境や産業の特色を、人口の集中との関わりに着目し、地図や統計、分布図などから読み取るとともに、人口の集中と都市圏の拡大に伴う課題を理解している。	関東地方に人口が集中する理由を、第3次産業の発展のほか、他地域や海外との結び付き、自然環境の特色などに着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。	関東地方について、よりよい社会の実現を視野に、人口の集中の視点からみた人々の生活や産業などの地域的特色を主体的に粘り強く追究している。
			第6節 東北地方	生活・文化を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を行う。	地図や写真などから、東北地方の自然環境や文化などの特色、産業の変化を読み取り、地域的特色や課題について理解している。	東北地方の人々の生活や文化、産業の発達と、自然環境や交通網の広がりなどのように関わっているのか、多面的・多角的に考察している。	東北地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や交通網の整備の視点から、地域的特色を主体的に粘り強く追究している。
	10	第7節 北海道地方	自然環境を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追及したり解決したりする活動を行う。	北海道地方の冷涼な気候の特色を理解するとともに、厳しい自然環境のなかで暮らす人々の生活の工夫や、自然環境を生かして発展させてきた産業の特色を理解している。	冷涼な自然環境の影響を受ける人々の生活や産業の特色を、他地域との結び付きや厳しい自然環境を克服するための工夫などと関連付けて多面的・多角的に考察している。	北海道地方について、よりよい社会の実現を視野に、冷涼な自然環境を生かした人々の生活や産業の特色や工夫を、主体的に粘り強く追究している。	
		【歴史的分野】 第2節 江戸幕府の成立と対外政策の変化	江戸幕府の成立と対外関係について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。	統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府の成立と対外関係について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	江戸幕府の成立と対外関係について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
3	11	6	第3節 産業の発達と幕府政治の推移	産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。	産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
			第5章 開国と近代日本の歩み 第1節 欧米における近代化の進展	欧米における近代社会の成立について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。	工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米における近代社会の成立について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	欧米における近代社会の成立について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	12	第2節 欧米の進出と日本の開国	アジア諸国の動き、江戸幕府の滅亡について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。	ヨーロッパでの工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アジア諸国の動き、江戸幕府の滅亡について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	アジア諸国の動き、江戸幕府の滅亡について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
		第3節 明治維新	明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。	明治維新の諸改革の目的、議会政治や外交の展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
3	8	第4節 日清・日露戦争と近代産業	議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする態度を身に付けさせる。	日清・日露戦争、条約改正などを基に、我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。	議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
		105	主な評価の方法	・定期考査・小テスト・ワークシート	・定期考査・小テスト・ワークシート・レポート	・パフォーマンス課題・ポートフォリオ	
評価基準			<p>1. 上記の評価規準、評価方法に基づき各観点別に  A:十分満足できる…到達度80%以上 B:おおむね満足できる…到達度50%以上～80%未満 C:努力を要する…到達度50%未満 で評価する</p> <p>2. 観点別評価から評定への総括…各観点の実現状況(到達度)を総括し、下記の要領で5段階評価する  90%以上の到達度…5 80%以上～90%未満の到達度…4 50%以上～80%未満の到達度…3 20%以上～50%未満の到達度…2 20%未満の到達度…1</p>				

令和8年度昭島市立多摩中学校  
社会科 年間指導計画、評価規準【第3学年】

学期	月	時数	単元名と内容	学習活動	観点別評価規準(主たるもの)			
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	4	4	【歴史的分野】 第6章 二度の世界大戦と日本 第1節 第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦前後の国際情勢について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きなどを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢と、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。	戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国の関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	第一次世界大戦前後の国際情勢について、そこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。	
			第2節 大正デモクラシーの時代	第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きから、なぜ民主主義を求めた風潮が高まったかを理解している。	世界の動きと我が国の関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、そこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。	
		第3節 世界恐慌と日本の中国侵略	第一次世界大戦前後の国際情勢、人類への惨禍について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	経済的世界的な混乱と社会的問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。	経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国の関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢、人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	第一次世界大戦前後の国際情勢、人類への惨禍について、そこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。		
		第4節 第二次世界大戦と日本	第二次世界大戦と人類への惨禍について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。	戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国の関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	第二次世界大戦と人類への惨禍について、そこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。		
	5	3	第7章 現代の日本と世界 第1節 戦後日本の出発	日本の民主化について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	我が国の民主化と再建の過程などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。	諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の民主化について、そこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。	
			第2節 冷戦と日本の発展	冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	冷戦、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。	諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、そこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。	
	6	7	3	第3節 新たな時代の日本と世界	日本の経済の発展とグローバル化する世界について、そこで見られる課題を追及したり解決したりする活動を行う。	国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。	国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の経済の発展とグローバル化する世界について、そこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
				第5節 私たちの生活と文化	文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	現代日本における文化の意義や影響について理解している。	位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。	文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
				第3節 現代社会の見方と考え方	現代社会をとらえる枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。	対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を結んだ個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。	現代社会をとらえる枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
	9	7	5	第2章 個人の尊重と日本国憲法 第1節 人権と日本国憲法	日本国憲法が大切にされてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	人権思想の歴史など歴史的分野の学習内容を踏まえて、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、日本国憲法が大切にされてきた理由について多面的・多角的に考察し、表現している。	日本国憲法が大切にされてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
第2節 人権と共生社会				人権保障が大切にされている理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深く、法の意義を理解している。	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、日本国憲法において人権保障が大切にされている理由について多面的・多角的に考察し、表現している。	人権保障が大切にされている理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
第3節 これからの人権保障				社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	社会の変化に伴って新しい人権の考え方が変化していく中でも、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について多面的・多角的に考察し、表現している。	社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
2	10	7	第3章 現代の民主政治と社会 第1節 現代の民主政治	民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	議院制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。	民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
			第2節 国の政治の仕組み	国の政治の在り方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのありましや政党の役割を理解している。	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、国の政治の在り方について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。	国の政治の在り方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
11	7	5	第3節 地方自治と私たち	地方自治について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、地方自治の課題とその解決策について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。	地方自治について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
			第4章 私たちの暮らしと経済 第1節 消費生活と経済	市場の動きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。	対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。	市場の動きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
12	5	3	第2節 生産と労働	市場の動きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神について理解している。	対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現している。	市場の動きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
			第3節 市場経済の仕組みと金融	市場の動きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	市場経済の基本的な考え方について理解している。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解している。	対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。	市場の動きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
3	1	5	第4節 財政と国民の福祉	国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	社会資本の整備、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解している。	対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の動きに委ねることが難しい諸問題に際して、国や地方公共団体が果たすべき役割について多面的・多角的に考察し、構想し、表現している。	国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
			第5節 これからの経済と社会	国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	公害の防止など環境の保全について、その意義を理解している。	対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の動きに委ねることが難しい諸問題に際して、国や地方公共団体が果たすべき役割について多面的・多角的に考察し、構想し、表現している。	国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
	2	6	第5章 地球社会と私たち 第1節 国際社会の仕組み	主権国家や国際連合、地域主義など、国際社会のさまざまな主体について関心を持ち、主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。	対立と合意、効率と公正、協調・持続可能性などに着目して、国家や国際連合、地域主義などの国際社会が抱える課題について多面的・多角的に考察し、表現している。	主権国家や国際連合、地域主義など、国際社会のさまざまな主体について関心を持ち、主体的に社会に関わろうとしている。	
			第2節 さまざまな国際問題	国際社会のさまざまな問題について関心を持ち、日本の果たすべき役割を主体的に考え、また、個人として主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	貧困、難民、地球環境、資源・エネルギーなどの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。	対立と合意、効率と公正、協調・持続可能性などに着目して、国際問題やその解決策について多面的・多角的に考察し、表現している。	国際社会のさまざまな問題について関心を持ち、日本の果たすべき役割を主体的に考え、また、個人として主体的に社会に関わろうとしている。	
3	4	3	第3節 これからの地球社会と日本	世界平和と人類の福祉の増大のため、国際協力を主体的に関わろうとする活動を行う。	世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力が大切であることを理解している。	対立と合意、効率と公正、協調・持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、国際貢献を促す国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。	世界平和と人類の福祉の増大のため、国際協力を主体的に関わろうとしている。	
			第4章 終章 より良い社会を目指して	私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする活動を行う。	持続可能な社会を実現するためには、さまざまな社会の課題を解決することが必要であることを理解している。	社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察し、構想し、自分の考えを説明、論述している。	私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	
140				主な評価の方法	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート ・レポート	・フォーマルな課題 ・ポートフォリオ	
評価基準		1. 上記の評価規準、評価方法に基づき各観点別に A:十分満足できる…到達率80%以上 B:おおむね満足できる…到達率50%以上～80%未満 C:努力を要する…到達率50%未満 評価する			2. 観点別評価から評定後の総括…各観点の実現状況(到達率)を総括し、下記の要領で5段階評価する 90%以上の到達率…5 80%以上～90%未満の到達率…4 50%以上～80%未満の到達率…3 20%以上～50%未満の到達率…2 20%未満の到達率…1			